



記念誌発刊に寄せて

小松島市長 濱田 保徳

平成28年3月、閉校となりました立江中学校の閉校記念誌発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

立江中学校は昭和22年4月1日、那賀郡立江町立江中学校として創立され、周囲は広大な水田地帯が広がり、町内には四国八十八ヶ所霊場の一つである第19番札所立江寺が位置するなど、歴史を重ねた地域として市民に愛されています。開校以来これまで、温厚かつ実直な卒業生を多数輩出しており、学校教育においては、自主・協同・勉学を求める生徒像を掲げ、人権を尊重し、校風の継承と創造に努める感性豊かな生徒の育成を主眼とした学校づくりを進めてまいりました。

学校教育法における中学校教育のあり方として、中学校は小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて中等教育を施すことを目的としています。また、小学校における教育の目標を十分に達成し、必要な資質を養うことはもとより、社会に必要な職業についての基礎的知識と技能、勤労を重んずる態度および個性に応じて進路を選択する能力を養うことなど、学校内外における社会的活動を促進し、公正な判断力に努めることも目標としています。

これらの目標達成のため、近年は、文部科学省「人権教育・徳島県同和研究(大会)」や同省「人権教育研究発表会」の開催および「人権教育総合推進地域及び人権教育研究」の指定など、人権を尊重し、自己と他の人を思いやる心の醸成も重視しており、人権尊重の視点に立ち、ともに生きる社会づくりに必要な人材育成も進めました。さらには、同省「豊かな体験活動推進事業(地域間交流)」「キャリア教育実践プロジェクト事業」や「人間としての在り方生き方を考える教育」実践教育事業、「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」等の指定を受け、自身が考え、議論し、発表するといった総合的かつ実践的な学習に積極的に取り組みました。

経済のグローバル競争を乗り越え、持続した成長を達成するためには、多様な思考に接し、時代の変化に対応した教育のあり方とともに環境整備が必要とされ、学校施設は地域の教育拠点であり、人材育成の場です。義務教育の根幹を成す中学校は、基礎学力を強化し、応用、発展させる時期であり、さらにはコミュニケーション能力を高め、困難な事象を突破する力の錬成といった人材育成をはかりながら、より現場目線を重視した教育は生徒が成長する過程において大きな糧となります。これらのことを踏まえ、地域の実情も勘案しつつ質の高い教育環境と通学の安全性、さらには防災拠点としての機能等も考慮し、多角的に協議を重ねた結果、中学校を統合し、小松島南中学校を開校することとなりました。今後は、新中学校の運営とともに地域との関係を構築しながら、新たなコミュニティ創造も進めていただきたく存じます。

開校以来、多岐に渡る教育分野において取り組みを進めてまいりましたが、学校関係者、生徒皆様の心情を察しますとともに、改めて中学校統合に対するご理解をいただきましたことに、心から敬意を表する次第であり、立江中学校が皆様の心に生き続けるものと確信しています。また今後は、これまでの学校教育目標も継承することを切に願うばかりであり、未来にはばたく子どもたちが活力にあふれ、心身ともに健全に育ちますよう、なお一層のご支援ご協力を賜り、新しい歴史の構築と益々の発展を期待しています。

結びにあたり、今日まで長年にわたり本校の発展に寄与いただいた地域関係者の皆様や歴代PTA会長、会員、歴代校長先生はじめ教職員、生徒の皆様にも厚く感謝申し上げますとともに、新たな中学校生活が健やかなものとなりますよう祈念申し上げます、私からのご挨拶といたします。